

－医師不足に対しては、医師の偏在解消と定着増加策の推進を－ 医学部新設よりもずっと効果的で安全な道の提言

本県の医師不足に対処するため、県内に医学部を新設する計画があります。これに対して、医学部新設はさらなる医師・看護師不足を引き起こし、かえって県内の医療を悪化させるため、私たちは県民の医療を守る立場から反対します。

1. 新設医学部に大量の医師・看護師が引き抜かれ、医療現場は大混乱

医学部には教育のために数百名の医師が必要です。一部の医師は県外から呼ぶことが可能でしょうが、多数の医師が県内の病院から教員として引き抜かれます。その結果、病人を診るための医師はあっという間に不足します。さらに、今でも不足している看護師も多数が新設医学部に吸い上げられ、県内の医療の崩壊に拍車がかかることは明らかです。

2. 医学部新設ですぐに県内の医師が増えると思うのは大きな間違い

医学部に入学して一人前の医師になるには、即席で育てても10年以上かかります。そのため、新設医学部から毎年卒業生が出て、上記1の医師・看護師の大量引き抜きであっという間に悪化した本県の医療を立て直すには、15年や20年でも充分ではないことは容易に想定されます。この間、今よりもさらに少ない医師で本県の医療を維持することは、極めて困難かつ危険です。

3. 医師の偏在解消と定着増加策が、より効果的で安全な道

私たちは本県の医師の増加をはかるために、以前からいくつもの提言をしております。大都市集中の研修医枠の再編、新潟大学医学部入学者の地域枠の活用、研修期間中に地方の病院への勤務を組み込むこと、本県への医師の招聘と医師の流出防止策の推進などです。それらの方が医学部新設よりもずっと効果的で安全な道です。

4. 多額の税金を投入しながら、かえって県の医療を悪化させる医学部新設計画は即中止を！

医学部に対しては、国公立は言うまでもなく、私立であっても教育のために多額の税金が投入されています。税金をつぎ込んで、かえって本県の医療を悪化させる危険性のある計画は直ちに中止すべきです。